

予算

◎令和3年度白石市一般会計補正予算(第6号)

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ5億609万7千円追加し、予算総額を170億8千864万1千円とするものです。

主な内容は次のとおりです。

- 道路維持補修費(除雪関連経費) 6千158万3千円
- 緊急自然災害防止対策事業 2億1千500万円
- 官民連携基盤整備推進調査事業 4千505万円
- 消防団備品整備事業 261万7千円
- 新型コロナウイルス対策事業(小学校費) 371万7千円
- 新型コロナウイルス対策事業(中学校費) 299万3千円

本会議質疑より

◎白石市学校給食条例

〔質疑〕学校給食費を各学校が管理する私会計から、市の公会計に移行することによるメ

リット・デメリットについて伺う。

〔答弁〕公会計化の最大のメリットは、教員の業務負担の軽減である。

教員が学校給食費の徴収管理業務を担う必要がなくなることで、その時間を活用して授業改善や児童生徒に向き合う機会を増やすことが可能になると考えている。

また、公会計化により、学校指定金融機関のみではなく、多くの金融機関から口座振替を選択することが可能となることから、保護者にとってもメリットがあると考えている。

デメリットとしては、児童生徒や保護者と顔の見える学校ではなく、市が徴収者となることで、滞納が増加する懸念があることである。

令和元年度および令和2年度においては、学校給食費の未納はないが、仮に滞納が発生した場合は、学校と連携して納付を促すよう取り組んでいきたいと考えている。

◎令和2年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

〔質疑〕令和2年度の一般会計歳入歳出決算は、決算規模が過去2番目、2年連続の黒字経営となった。一方、財政力指数は前年度と比べると上昇したものの、経常収支比率は悪化となった。

令和2年度の収支をどのよう分析し、今後の予算編成、事業計画に生かしていくのか伺う。

〔答弁〕令和2年度は、国・県支出金などを最大限に活用し、新型コロナウイルス対策事業に全力で取り組んできたところである。

しかし、依然として新型コロナウイルス感染症の終息が見込まれず、経済活動の自粛が長期化しており、市税や使用料など本市財政に対する影響は今後も続くものと想定される。

さらに、令和元年の台風や本年2月の福島県沖地震など大規模災害に立て続けに見舞われていることもあり、財政の硬

直化と基金減少のリスクが懸念されることである。

また、厳しい経営状況が続く公立刈田総合病院については、年間20億円もの赤字が想定され、経営改善のための努力を継続しているものの、今後、国や金融機関からの支援が受けられなくなれば、その86.7%は本市が負担しなければならず、本市財政に対する影響を大変危惧することである。

このような状況を踏まえ、自主財源の確保が大変重要な課題であることから、今後の予算編成や事業計画については、限られた財源をどこに重点的に投資していくかという、選択と集中がさらに重要になると考える。

〔質疑〕令和2年度で特に印象に残った事業や施策を伺う。

〔答弁〕新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、GIGAスクール構想で1人1台パソコンを導入できたことである。

何としても学びを止めないとの思いから、教育委員会や各学校での熱心な取り組みによりデジタル化が大きく推進さ

れたものと考えている。

今後は、不登校児童の対応などにも活用することにより、誰も取り残さない、一人一人に寄り添った教育をさらに推進できるのではないかと期待する。

また、(仮称)白石中央スマートインターチェンジが新規事業化されたことは非常に大きいことである。

人口減少を止めるためには、未来に向けた投資も必要である。しっかりと働く場所を確保し、本市の人口流出を何とかとどめるとともに、新たに人口流入のための政策を推進していくかなくってはならない。

スマートインターチェンジとその周辺整備については、国の交付金や補助金、交付税措置のある地方債などを有効に活用し、一般財源をできる限り圧縮して事業を推進する予定である。

令和2年度は非常に厳しく困難な経済状況下であったが、間違いなく将来にとっても大きな光の見えた年度だったと総括している。